

能代高

⑪

天下の若大将

×期生を評してある先生いわく

「沈香もたかずへもひらず……
まじめで、おとなしすぎるくらいがあつたためだろう。」

そこへいくと、山崎五郎（参議院議員）に代表される3期生は、活力十分。勢い余つて、脱線。もして、涙と笑いのさまじまな思い出を残した。創立以来初めての学園ストをやつてのけたのも、3期生である。

「おや、また火事だな」

「ウム、あこには〇〇君の家がある。すぐ手伝いに行かねばなね」

能代で最もありがたくないの

は火事が多いこと。その火事と聞くと、舎生たちは水を得た魚。病気の時、さもなければ火事騒ぎの場合に限つて、外出が自由。前にも書いたが、能中寄宿舍の規律は厳格だった。

〇〇君の家が近所にある、とかなんとか理由をつけて外へ出た。カゴの鳥。の山崎らは、火事がとつくに消えても、なかなか寄宿舍に戻らない。この時とばかり（したら）のそば（人望舎）のなべ焼でハラごしらえ。

決して悪意はない。だが、舎監長をおこらせてしまうようなやんちゃぶりを十二分に発揮した。

山崎がざつとあげると――

見ることを禁じられていた闘犬見物。八幡神社の祭典相撲に飛入りして優勝をさらつてしまふ。馬肉を大量に買い込み、夜中に煮て食う……等々。



さし絵は戸松恭一（新11期・能代高教諭）

山崎はやらなかったが、近くのナシ畑から、カバンにいっぱいナシを失敬して来る舎生も。

これは、度が過ぎたため、農家の人が学校に泣きついた。

「食う分ぐれだばやっとも、一口かじって投げるようなもつてねことだばやめてけれ！」

あのストライキ（のちのちまで尾を引いたものだが）の火の手は、なにかと話題の多かった寄宿舎から、やがて全校に拡大した。

教頭であり舎監長だった今福兼蔵先生へのうらみつらみが、卒業間近になってドカーンと爆発した形。昭和七年といえ、能代工業でも学園ストがあり、ちまたでは酒は涙かため息かなどの歌が流れた。不況で重苦しい時代だった。

「舎生にうめくねものかせて舎監長は、自分だけサシミつけ

でいる」

「公計がはつきりしね」

いろんな不満を並べて展開された今福先生排斥運動。舎生以外にも、今福先生のピンタで痛めつけられていた生徒が多く、うらみを晴らすチャンス到来と同調した。

登校はするが、授業はボイコットというのがストの実態。自動車通組、町の中央組とそれぞれグループがあり、思い思いの場所で集合、そして氣勢……。海岸砂防林から、時ならぬ中学生の叫び声があり、なぜか学校向かいの火葬場へ集まって時を過ごす組もあった。

三日月余の曲折を経て、卒業式寸前に終わりを告げたストだったが一。

「要するに、子供っばい理屈をつけ、正義感だけで手向かったようだ」

山崎は、何となくあと味の悪さを覚えた。山崎とともにストの先頭に立ったとされている板倉創造（前道路公団理事）、佐藤平八（歯科医）、齋藤博（尺八教授）らにしても、同じ思いではなかったか。

救いだつたのは、生徒に一人の犠牲者も出なかったこと。山崎が見事なまとめ役を果たした結果だった。

「その辺が、実力者」たるゆえんでしょうか」

現在山崎の秘書をやっている藤本光男（15期）も、さすがだと思ふ。

このストは武藤校長も相当のシヨックを受けた。卒業式の当日行われる予定の謝恩会を学校側が拒否。

「そんなこつたば、オラたち同窓会に入らねど」

3期生は、一度納めた同窓会

費を学校から取りかえした。

今福先生はストが始まってから学校に姿を見せなかった。3期生が卒業して間もなく、能中を去った。当時はやった、馬賊の唄が大好きで、根はやさしく、生徒に一番親しい先生でもあった。

卒業後十五年もたった昭和二十二年、3期生が同窓会名簿に登場した。火事で焼けた校舎の再建に大きな力となったのが山崎ら3期生。めでたく学校と仲直りできたのである。（敬称略）

